

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本方針

広い視野をもち、心身ともに健康で、創造性と実践力に富む心豊かな児童の育成を目指す。

(2) 具体目標

【時代を拓く日本人を育てる】

○ よく学び考える子

○ 思いやりのある子

○ たくましい子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

創立 1 4 2 年の歴史や伝統、そして豊かな自然や文化に培われてきた本校で学ぶすべての児童に対し、全教職員がその力を結集し、教育目標の達成を目指す。そのためには、一校一家の校風のもと、すべての教職員の和と信頼を以て、児童・保護者・地域住民と協和し、創意と工夫・活力に満ち、充実した教育活動を展開する。また、地域とともにある学校づくりを目指し、家庭や地域との相互理解に基づき、三育（共育・協育・響育）の精神をもって地域の教育資源を活用しながら、学び合い、喜び合い、はげまし合う教育の実践に取り組む。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

○（１）楽しく居がいのある学校づくり

（４）地域とともにある学校づくり

○（２）生きる力を育む教育実践

（５）自己研鑽及び経営組織の活性化

○（３）社会性の育成

【古里地域学校園教育ビジョン】

児童生徒一人一人に、将来の夢や希望をもたせるとともに、「学ぶこと」そして「心豊かにたくましく生きること」を自覚させ、社会的自立をめざす教育に小中が一貫して取り組む。

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】○保護者や地域との連携及び様々な地域資源の活用による教育活動の充実

【学 習 指 導】○自分の考えをもち、進んで学び合い、表現する力の育成と基礎基本の定着

【児 童 生 徒 指 導】○相手の気持ちを考え、正しく判断し行動できる児童の育成

【健康（保健安全・食育）・体力】○健康・体力の向上を目指し、元気で安全に生活しようとする児童の育成

5 自己評価（評価項目の A は市共通，B は学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「自分は今の学校が好きである」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童の自己肯定感や主体性を高めるため、各行事や児童会活動を工夫し、児童が主体的に活動する場を設定する。 ② 児童の心の安定や居がいのある場所づくりをするため、「先生とお話ししよう週間」を効果的に実施していく。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 9 3 % であり、指標の 9 0 % を上回った。 ・「すてきな虹色白沢っ子」の合言葉や一斉下校時の啓発などにより元気よくあいさつする風土が定着しつつある。 【次年度の方針】 ・児童の自己肯定感や主体性をさらに高めるために、各行事や児童会活動を見直ししながら、児童が主体的に活動できる場を意図的に設定する。 ・児童の心の安定や居がいのある場所づくりにつながるよう「お話し週間」を効果的に実施しながら、現状の把握に努めたり、具体的な方策を基に手立てを講じたりする。

A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 授業のねらいの提示と振り返りの実施により、児童がより主体的に学ぼうとする授業づくりを行っていく。 ② 日々の構造的な板書や校内での一人一授業の実施により、児童が意欲をもって学習に取り組めるような指導法を工夫していく。	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 98.6%であり、指標の 90%を上回った。 ・授業の中で、めあてと振り返りを意識させたことにより児童が主体的に学ぼうとする姿が見られた。 A 【次年度の方針】 ・ねらいの提示と振り返りの実施については、継続して取り組んでいくが、さらに構造的で分かりやすい板書に努めることによって児童の学習意欲を高める。
A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 毎月、学校全体の生活目標から、学級生活目標を設定し、さらに<u>児童に具体的な生活目標をもたせることにより、基本的な生活習慣の徹底を図る。</u> ② 大きな目標から週の生活目標へのスモールステップ化や、毎月の朝会や集会活動等で振り返りを行うとともに、職員間の情報交換を蜜にし、細やかな指導を続けていく。	【達成状況】児童の肯定的回答 86.9% 市の平均より 3.9%高く、昨年度より 5%以上上がっている。しかし、目標の 90%には届いていない。 B 【次年度の方針】 ①本校の生活目標を明確化した「すてきな虹色白沢っ子」は成果を上げているので継続する。さらに、月目標の提示方法や重点チェック期間、振り返り方を見直し、児童一人一人が「守ろう」という意識を高める工夫をする。 ②各種便りを通して、重点目標への取組や児童の変容などを保護者や地域に知ってもらう。 ③学習指導にも関わる重点目標として、「時間を守る」をより意識化できるよう工夫する。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① コースの特性を生かした指導方法の研究と学び合いを取り入れた少人数学習により、学力の向上を図る。 ② <u>基礎力を養う朝の学習「プロジェクト S」での毎月の確認テストの実施</u>及び国語・算数の密接な関連により、分かる授業に努める。	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 97.2%であり、指標の 90%を上回った。 ・算数科では習熟度別に分け、その特性を生かした少人数指導により児童一人一人の学力の向上が図られた。 A 【次年度の方針】 ・少人数習熟度別指導については継続して取り組み、さらに指導方法を工夫することによって学力向上を図りたい。 ・本年度の学力テストの課題を明らかにし、思考力を育てる授業に力を入れていく。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① いじめゼロ集会やいじめアンケート、標語の募集の実施などにより、児童への意識化を図る。 ② 道徳の授業等により児童の心を育てるとともに、各種便りや HP 等により保護者の意識も高めていく。	【達成状況】児童の肯定的回答 99.6% ほぼ 100%近くが肯定的回答をしている。昨年度よりも上がっており、市の平均も上回っている。 A 【次年度の方針】 ①いじめゼロ集会やいじめアンケート等の実施により、児童への意識化を図る。 ②いじめを未然に防ぐことを目的とした自己肯定感を高めるカードの活用（児童自身のよさの発見、友達からのよさの発見、保護者や地域の方々からのよさの発見）を図る。 ③道徳の授業等により、児童の心を育てるとともに、各種便りや HP 等により保護者の意識も高めていく。

A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。 【数値指標】 全体アンケート「私の学校生活や様々な活動は充実している」⇒児童肯定的回答 90%以上	① 昨年度の反省をもとに、日課や行事等の見直しを図り、適切に実施する。 ② 行事毎に実施している評価・反省から改善のための検討を行い、次年度に活かす。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 94%で、指標の 90%を上回った。 ・保護者の肯定的回答は、昨年度に比べ約 5%上がったが、市の平均までは届いていない。 【次年度の方針】 ・昨年度の反省や評価を基に、児童の実態や教育活動のねらいに即した真剣な教育活動となるような日課の改善と運営を図る。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 学校一日公開や毎月の各種便りの発行、学校の様子を学校HP掲載により、保護者はもとより、地域住民にも情報を提供する。 ② 地域協議会やPTA会議、学校公開日のアンケートなどでの提案や要望を検討し、学校づくりに生かす。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 97.8%で、指標の 80%を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・一日学校公開での積極的な授業公開、各種たよりやHPのさらなる充実により、保護者及び地域への開かれた学校づくりを目指す。 ・地域協議会での情報交換、学校公開日でのアンケート等での提案や要望に検討を重ね、学校づくりに生かしていく。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	① 「白沢小学校地域協議会」と連携し、学校支援ボランティアの協力を得ながら、教育活動の充実や登下校の安全確保に努めていく。 ② 地域にある企業や専門性をもつ人材の授業参加を継続し、地域の教育力を生かした活動を推進する。	【達成状況】 ・地域住民の肯定的回答は 100%で、指標の 80%を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・地域連携教員や地域コーディネーターとの連携を図り、地域協議会や学校支援ボランティアの協力を得ながら、教育活動の充実や登下校の安全確保に努めていく。 ・地域の企業や専門性をもつ人材の授業参加に工夫改善を加え、地域教育力を生かした、より実態に合う活動を推進していく。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、清掃が行き届き、学習しやすく潤いのある環境である」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 施設・設備の点検・修繕を定期的・日常的に行い、危険個所の早期発見・修繕・補修を的確に実施する。 ② 校内掲示計画に基づく潤いのある環境の整備や清掃時の児童への指導、また教材の有効活用を考えた保管の仕方を検討しながら学校内環境の整備に努める。	【達成状況】保護者の肯定的回答 97.4% 保護者や地域住民から高い割合で肯定的回答を得ている。昨年度よりも上がっており、市の平均も上回っている。 【次年度の方針】 ①施設・設備の点検・修繕を定期的・日常的に行い、危険個所の早期発見・修繕・補修を的確に実施する。 ②校内掲示計画に基づく潤いのある環境の整備や清掃時の児童への指導、また教材の有効活用を考えた保管の仕方を検討しながら学校内環境の整備に努める。
B 1 地域との連携を大切にし、地域から学ぶ姿勢を一人一人の教職員が身に付ける。 【数値指標】 学校独自のアンケート「学校は、地域素材や人材を活用した学習を積極的に行っている」⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① 地域探検や食農体験学習等、<u>地域素材や人材・施設を活用した学習を実施する。</u> ② 交流行事や活動のねらいを十分検討し、心の交流につながる活動になるよう工夫を加えながら継続していくとともに、学びを地域に発信する機会を設けるなど、双方向性の交流を目指していく。	【達成状況】 ・地域住民の肯定的回答率は 100%で指標の 90%を上回り好結果となっている。 ・地域の方々の協力はもちろん、人材を十分に活用できる計画がなされていたと考える。 【次年度の方針】 ・生活科、総合的な学習の時間の他にも奉仕作業や食農体験など、地域住民の方々の協力を取り入れるような学習を計画・継続していく。

教育活動の状況	生活	A10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は時と場に応じたあいさつをしている」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 古里地域学校園や児童代表委員を中心とした<u>朝のあいさつ運動を実施し、意識化・実践化を図る。</u> ② 校内の「あいさつ通り」を活用するとともに児童会によるあいさつ運動やあいさつ名人の表彰、あいさつ標語の作成を継続して行い、更なる定着を図る。 ③ 懇談会や学校だよりなどを通して、家庭と連携して指導の徹底を図る。	B	【達成状況】児童の肯定的回答 96.1% 昨年度よりも上がっており、市の平均も上回っている。 【次年度の方針】 ①古里地域学校園や児童代表委員を中心とした朝のあいさつ運動を実施し、意識化・実践化を図る。 ②校内の「あいさつ通り」を活用するとともに、児童会によるあいさつ運動（あいさつシール作戦、あいさつ名人等）を継続したりさらに工夫したりして、さらなる定着を図る。 ③懇談会や各種便りを通して、家庭と連携して指導の徹底を図る。 ④来校者や地域住民へのあいさつができるような取組を工夫する。
		A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、大人に対して適切な言葉遣いをしている」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 友だち同士で「くん・さん」づけで呼び合うことを<u>児童指導の重点目標として、毎月児童と教師が共に振り返りを行いながら、年間を通して根気よく指導する。</u> ② 「白沢小生活の約束」に基づき、家庭と連携しながら指導を継続する。	B	【達成状況】児童の肯定的回答 84.8% 市の平均は、3%以上上回っているが、目標には届いていない。 【次年度の方針】 ①友達同士で「さん・くん」をつけて呼び合う指導を継続する。 ②授業中は、「です・ます」で話すことを徹底し、時と場に応じた言葉遣いを意識し、定着させる。 ③「白沢小生活の約束」に基づき、家庭と連携しながら指導を継続する。
		B2 相手の気持ちを考え、正しく判断し行動している。 【数値指標】 学校独自のアンケート「先生方は、いつでも悩みなどの相談にのってくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 担任による「お話ししよう週間」（年2回）やスクールカウンセラーによる教育相談、教職員による事例研究会等を計画的に実施し、担任一人が抱え込むことなく、学校全体で児童の情報を共有しながらよりよい対応策について協議していく。する。 ② 保護者とスクールカウンセラーとの教育相談や教育相談だよりなどを通して保護者との連携を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は、96.8%であり、指標の90%を上回った。 ・普段の様子や「お話し週間」での現状把握により、児童との対話の豊富さが、信頼関係の構築へとつながっていると考える。 【次年度の方針】 ・担任による「お話し週間」や教職員による事例研究会の実施、職員会議での児童の情報交換を通して、よりよい対応策を協議していく。 ・スクールカウンセラーとの教育相談や教育だよりなどを通して、保護者との連携や情報の共有を図る。
	健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 元気っ子体力チェックの結果をもとにした教科体育の充実や持久走大会、縄跳び記録会などでの「がんばりカード」を活用しながら、めあてをもって達成感を味わえるような運動を工夫する。 ② 計画的に行っている縦割り班遊びをよい機会ととらえて、なかよしタイムや昼休みの外遊びを奨励していく。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は、89.1%であり、指標の80%を上回った。 ・天候状態や図書利用などにより、室内で過ごす児童が多く見られることがあるが、体を動かすことの爽快さや保健学習による運動の重要性に対する理解の定着などが一助となっているととらえる。 【次年度の方針】 ・運動の積み重ねによって自分自身が成長していることが実感できるように、教科体育のさらなる充実や各種検定の活用、体育的学校行事などを計画的に実施する。 ・運動の日常化につながるように、業間において様々な運動遊びの場を設定したり、外遊びを奨励したりする。

学 習	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① <u>養護教諭や栄養士、食育主任と連携した食育月間、給食週間、食育集会などを実施するとともに、がんばりカードの積極的活用を図る。</u> ② <u>地域学校園お弁当の日実施</u>、懇談会や家庭訪問、食育たより発行など、機会を捉え、保護者と連携し、よりよい食への啓発を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は、80.5%であり、指標の90%を下回った。 ・嫌いな食材があっても健康のためにしっかり食べている児童は多い。アンケートの際に文言の説明を正確に行うとよいのではないか。 【次年度の方針】 ・養護教諭や栄養士、食育主任と連携した食育月間、給食週間、食育集会など内容を精査しながら積極的に実施する。 ・地域学校園でのお弁当の日実施や家庭訪問、学級懇談会、食育たより発行など、保護者との連携を図りながら、よりよい食への啓発を続けるとともに、学級での指導や学級活動の内容を改善する。
	B3 健康・体力の向上を目指し、元気で安全に生活しようとしている。 【数値指標】 学校独自のアンケート 「自分の健康や安全に気をつけて生活している。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 地域や保護者と連携して安全教育の充実を継続するとともに、健康や安全に関する学校行事の振り返りから活動を見直し、健康や体力への関心を高める。 ② 保健学習をより充実させることにより、児童が実感を伴って内容を理解できるように努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は96.5%であり、指標の90%を上回っている。 ・A12と同様ととらえる。 【次年度の方針】 ・健康について児童が実感を伴って理解できるように保健学習や学級活動における項目内容をさらに充実させる。 ・地域や保護者と連携して安全教育の充実を継続するとともに、健康や安全に関する学校行事の振り返りから活動を見直し、健康や体力の関心を高める。
	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学習の約束（児童）や学習指導の基本（教員）に基づいた学業指導の継続・積み上げを図りながら児童の主体的な学びを引き出し、さらなる学力向上を目指す。 ② 授業の更なる理解につながる読解力などの国語力を伸ばすため、朝の学習でのリライト教材の活用に努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は94.3%で指標の80%を大きく上回った。 ・古里学校園で作成した「家庭学習のすすめ」を参考にして、進んで家庭学習に取り組む態度が身に付いている。 【次年度の方針】 ・授業のさらなる理解につながる読解力を伸ばすため、朝の学習（プロS）の時間でリライト教材の活用に努める。 ・「白沢小学習の約束」や古里学校園で作成した「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭と連携して学習習慣の形成に努める。
	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「授業中に先生や友達の話聞くなど、落ち着いて学習している。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	① <u>「白沢小学習の約束」や古里学校園で作成した「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭と連携して学習習慣の形成に努める。</u> ② 児童に向き合う時間の確保や授業力・指導力の向上をめざし、児童と更なる信頼関係の構築に努めていく。	A	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は92.2%であり、指標の90%を上回った。 ・発表の仕方や話の聞き方についての学びの基本が身に付いてきている。 【次年度の方針】 ・学習の約束（児童）や学習指導の基本（教員）に基づいた学業指導の継続・積み上げを図りながら児童の主体的な学びを引き出し、さらなる学力向上を図る。 ・教師の授業力・指導力の向上を目指し、校内研修を充実させていく。また児童との信頼関係の構築にさらに努めていく。

本校の特色・課題等	B4 地域学校園を基盤とした交流・教育活動を実施する。 【数値指標】 学校独自のアンケート「学校は、地域学校園をはじめ、幼・保・小・中・特別支援学校との交流を大切に活動をおこなっている」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 小中一貫教育部会の計画的開催や中学校や保育園、特別支援学校との交流活動を計画的に実施する。 ② 交流活動のねらいを学年の発達段階に応じよく検討し、活動が心の交流につながるよう工夫する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 95.5%で、指標の 90%を上回った。 【次年度の方針】 ①学年・発達段階に応じた交流活動のねらいと実施内容を全職員が共有し、全職員の共通理解のもと系統的に交流が図れるよう工夫していく。 ②小中乗り入れ授業の際には、授業参観や情報交換の時間を設けるなど、小中の相互理解を図る取組を工夫していく。
-----------	---	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【成果】

- 今年度の肯定的回答は、ほぼ全ての項目において市の平均を上回っている。特に、「時と場に応じたあいさつ」における肯定的回答は、市の平均を大きく上回っており、1年間意識して取り組んできたことがうかがえる。さらに家庭と連携を図りながら、「進んであいさつのできる児童」を育てていきたい。
- ・秩序ある落ち着いた学校生活を送れるように月重点目標の設定と児童・教師の振り返りを継続してきたことで、「決まりやマナーを守った生活」「授業中、落ち着いて話を聞く」等の項目において、肯定的回答の割合が昨年度に比べ大きく上昇している。さらに継続を図っていきたい。
- 今年度も、地域協議会を中心とした学校教育支援ボランティアの協力を受け、「地域から学ぶ授業」「地域の企業等と連携した授業」など、地域の教育力を生かした活動を推進することができた。

【課題】

- ・休み時間や放課後などに積極的に運動に取り組むことへの肯定的回答は、どの対象者も昨年度より減少している。元気っ子体力チェックでも投力等に課題が見られたので、日課表に運動の場を取り入れ、楽しく効果的な体力づくりができるよう工夫していきたい。
- ・対象者の中では、保護者の肯定的回答の割合が低い。授業参観・一日学校公開・学校だよりをはじめとするたより類・ホームページ等を活用し、情報発信・啓発に努めていきたい。

6 学校関係者評価

- ・「学校だより」の発行により、学校の様子が手に取るようにわかり、ありがたい。
- ・情報の伝達は難しく、限界がある。年度当初、来校した保護者にホームページを見てもらう機会を設ける等、きっかけづくりを行うことも一策である。
- ・アンケートで保護者の本音が聞けるのはよい。学校からは情報発信を続けるとともに、保護者にもまめに学校に足を運んでもらい、先生方と直接話ができるとよい。
- ・あいさつは進んでできるようになってきた。継続・浸透できるとよい。
- ・運動の習慣を身に付けさせるためには、縦割りの遊びができるとよい。上級生が下級生に遊び方や道具の使い方を教えられようようにしたい。また、遊びながら、目標を達成した喜びを味わわせるような工夫があるとよい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学校からの情報発信は、工夫を加えながら継続して行っていきたい。特に保護者には、学校の教育活動・児童の様子・抱えている問題等について深く理解していただき、児童がより楽しくいきいきとした学校生活を送ることができるよう、歩調を合わせながら取り組んでいきたい。
- ・週日課の中に「体力づくり」の時間を設け、児童の体力向上に努めていきたい。また、外遊びを推奨し、児童が「体を動かすことが楽しい」と感じることができるよう取組を工夫していきたい。
- ・引き続き、地域の方々に協力していただきながら、自分から進んであいさつのできる児童を育てていきたい。